



北京あれこれ

最初の2枚の写真は、北京にある天壇公園という公園で撮ったものです。この公園は、観光スポットとして有名な場所ですが、地元の人たちの憩いの場としても有名です。早朝から、広い敷地のあちこちで、たくさんの年配の人が、ダンスや太極拳をしているのを見かけます。羽根を足で蹴り上げる蹴羽根という遊びや、バトミントンを楽しんでいる人たちもいます。とても高齢者とは思えない、華麗で無駄のない動きをする人々をたくさん見かけます。ここの本来の見どころは、公園の中央にある祈念殿という建造物ですが、こうして公園に集って楽しんでいる中国人を見

たくて、ここを訪れる旅行客も多いようです。

地元の人たちが集まって楽しむ様子は、大きな公園でなくても、街中のちょっとした広場や駐車場など、人が集まれる場所であれば、目にするすることができます。といっても、朝早くか、日が沈んだ頃の時間帯に限られるので、観光で来た人は、そうした時間帯に行かないと見逃してしまうでしょう。早朝や夜は、主に年配の人たちが集まっていますが、週末の昼間になると、人も入れ替って、若者がバスケットを楽しんだりします。中国では、つい最近NBAを引退した有名な中国人選手の影響もあってか、バスケットボールは、日本でよりも人気が高く、若者の間に広く浸透している感じがします。中国で、一般の人が楽しむスポーツとしては、卓球、バトミントン、水泳など、個人競技の人気が高いようですが、バスケットボールは、団体競技の中では珍しく人気の高いスポーツのようです。サッカーも、中国では非常に人気が高いですが、自分でするというよりは、テレビ観戦など、見て楽しむ人が殆どです。





こちらで、屋外コートや体育館のような施設は、使用料は決して安くはないのですが、数が少ないこともあって、休日になると、バドミントンやフットサルを楽しむ人たちが予約が埋まっているようです。

このように書くと、中国でも、スポーツ愛好者は多いように感じられますが、実際のところは、一般人のスポーツ人口は、日本や他の国と比べると少ないと言われます。最近では、北京オリンピックの効果もあって、また、スポーツ省と呼ばれる役所の働きかけもあって、少しずつスポーツ人口が増えてきているようですが、かつては、中国でスポーツといえば、オリンピックでメダルを狙うような人たちを除けば、するものというより、見て楽しむものだったと言われます。こちらの学校には、日本でいうようなクラブ活動はなく、体育の授業も、週1、2時間しかないようです。エリート選手の養成学校に通うような特別な子供を除いて、普通の子供たちが毎日特定のスポーツに打ち込むような環境は殆どないようです。

街では、有名なスポーツブランドのショップをよく見かけますが、よく売れているのは、純粋なスポーツ用途のものより、カジュアル性の高いものだそうです。スポーツシューズやスポーツウェアも、ファッションの一部として扱われているようです。ちなみに、

こちらでは、ブランドのロゴや柄が大きく入ったデザインのものが好まれていて、同じブランドでも、日本で見るのとは違う品揃えになっていることが多いです。

最後の写真は、10月に行われた北京マラソンでの1枚です。毎年、招待選手だけでなく、一般のランナーが海外からも大勢参加しているようです。昨今は、あちこちでランニングブームだそうですが、海外からこのマラソンに参加するためだけに京北に来るツアーもあるようです。普段の北京の街中では、このブームを実感するほど中国人ランナーを見かけることはありませんが、スポーツ省の働きかけなどもあって、ランナーの数はじわじわと増えつつあるようです。中国のマラソン大会では、バスケットボールシューズなど他の種目の靴を履いて参加する人が多いようですが、最近は、ランニングシューズを履いて参加する人が増えてきているそうです。



筆者紹介

門脇 学 (かどわき まなぶ)

弁理士。グローバル・アイビー東京特許業務法人所属。1998年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所。主に日本企業の国内外の出願、権利化業務を担当。2007年より中国に滞在。現在、GIP China Corporation (GIPグループ北京オフィス)において、出願業務のほか、中国国外の企業の中国出願に関する連絡業務などを担当。